

アスファルトプラント 定期点検検査計画書

会社名など

目 次

1. 目 的	・ ・ ・ ・ ・	1
2. 日時と場所	・ ・ ・ ・ ・	1
3. 検査対象アスファルトプラント概要	・ ・ ・ ・ ・	1
4. 検査項目	・ ・ ・ ・ ・	1
5. アスファルトプラント定期点検立会い検査実施内容	・ ・ ・	2
立会時各試験 ・ 検査項目の特記事項	・ ・ ・ ・ ・	3
アスファルトプラント定期検査工程表	・ ・ ・ ・ ・	4
アスファルトプラント 系統図	・ ・ ・ ・ ・	5

(別紙4)(例)

1. 目 的

- ・ 本検査は、アスファルトプラント定期点検検査計画書に基づき、機械的特性を把握すると同時に、各検査基準に適合するかを判定するために行うものである。

2. 日時と場所

日 時 :

場 所 :

3. 検査対象アスファルトプラント概要

製 造 会 社 :

型 式 番 号 :

混 合 形 式 :

公 称 能 力 : t/h 新規合材 t/h 再生合材

バ ッ チ 重 量 : kg 新規合材 kg 再生合材

4. 検査項目

* 常温骨材流量・アスファルト吐出量

材 料 名	材 料 材 質	製造者又は納入業者	工 場 所 在 地
5号碎石			
6号碎石			
7号碎石			
粗 砂			
F-2.5			
アスファルト			

* 温 度 計 (ドライヤー・ホットビン・アスファルト・再生ドライヤー)

測定位置	型式	製造会社	測定範囲	最小目盛
ドライヤー				
ホットビン				
アスファルト				
再生ドライヤー				

* プラント計量器 (骨材・石粉・アスファルト・再生骨材)

計 量 器	計量方式	秤 量	最小目盛	拡大目盛
骨 材				
アスファルト				
石 粉				
再生骨材				

※ 計量士による検査を実施

(別紙5)(例)

5. アスファルトプラント定期点検立会い検査実施内容

◎ 下記検査項目は、『アスファルトプラント定期点検の立会い検査基準』に基づいて実施する。

5-1. プラント計量器

計量法に基づき計量士が事前に計量器検査を実施した、検査結果の写しを提出及びその結果の確認を行う。

＜内容＞(例)

- 5-1-1. 骨 材 (最大目盛 kg、最小目盛 kg)
- ・ 最大載荷1,000kgまで20kg原器にて、100kg間隔の載荷時および除荷時の検査を行う。尚、感度については、2kg原器を使用し検査を行う。
- 5-1-2. アスファルト (最大目盛 kg、最小目盛 kg)
- ・ 最大載荷160kgまで10kg原器にての載荷時および除荷時の検査を行う。尚、感度については、1kg原器を使用し検査を行う。
- 5-1-3. 石 粉 (最大目盛 kg、最小目盛 kg)
- ・ 最大載荷200kgまで10kg原器にての載荷時および除荷時の検査を行う。尚、感度については、1kg原器を使用し検査を行う。
- 5-1-4. 再生骨材 (最大目盛 kg、最小目盛 kg)
- ・ 最大載荷350kgまで10kg及び20kg原器にての載荷時および除荷時の検査を行う。尚、感度については、2kg原器を使用し検査を行う。

5-2. 常温骨材流量試験

プラントにおいて事前に実施した各骨材フィーダーの流量測定結果の提出及び検査当日の試験結果の確認を行う。

＜内容＞

- ・ 試験は 号碎石の 回転について二回行い、流量時間は に設定する。
- ・ 碎石の積込みはダンプトラックに行い、設定時間流出後にトラックスケールで計量する。
- ・ 骨材の含水比は、試験実施時のダンプトラックより採取し測定する。
- ・ 試験を二回実施した誤差の確認及び事前に実施した試験結果との比較を行う。

5-3. 温度計

標準温度計とプラントに設置する温度計との誤差及びタイムラグの確認を行う。

＜内容＞

- ・ 検査する温度計は、ドライヤー、ホットビン、アスファルトなどの3(4)箇所について行う。
- ・ 測定温度は、100℃付近、150℃付近、200℃付近の3点について実施する。
- ・ 測定は各温度ともに8分間継続して行い、30秒ごとに各温度計の温度を同時に読み取る。
- ・ 測定終了後にデータをまとめ、結果の確認を行う。

5-4. アスファルト吐出货量

計量したアスファルトが確実に吐出するか、1バッチ重量及び総重量について誤差の確認を行う。

＜内容＞

- ・ 吐出アスファルトを受けるアスファルトローリー車の重量を測定したのち、受け口へ吐出ラインパイプ排出口をセットする。
- ・ アスファルトの設定計量値は kgとし バッチ連続的に計量を開始する。
- ・ アスファルト計量器は kg目盛に設定し、各バッチごとの計量重量及び原点の読みを記録を行うと同時に計量時の感度を把握する。
- ・ 設定重量をアスファルトローリー車に吐出後に、トラックスケールで積載重量を測定する。調査は、これを3回実施する。
- ・ 測定終了後にデータをまとめ、結果の確認を行う。

※ 上記項目内容に従い、アスファルトプラント定期点検検査を実施する。

(別紙6)(例)

立会時各試験・検査項目の特記事項

1. プラント計量器検査

- ・プラント計量器の検査については、計量士による検査を、前項5-1に基づいて事前に実施しておくこととする。
- ・原器を積む際、崩れないように安全に載荷することとする。

※ 各載荷段階において誤差が±1.0%以内。
ただし、最小目盛りの半分まで許容する。

2. 常温骨材流量試験について

- ・事前に試験を実施し、各骨材フィーダーの時間当たり流量を把握する。
- ・6号砕石についてフィーダー回転数を定め、同一回転数にて2回実施し、事前に実施した試験との差異を確認し、立会時の点をプロットする。
- ・荷こぼれのないよう注意し、安全作業に努めることとする。

※ 同一セットについて2回以上行った試験のバラツキが原則として
平均値の±2%以内。

3. 温度計検査について

- ・5-3のとおり全て実施する。
- ・検査は、高温のオイルに顔を近づけるものであり、特に安全(火傷など)に留意して行うこととする。

※ 標準温度計とのずれが±5℃以内、タイムラグは6分以内

- タイムラグとは、標準温度計と検査温度計との読みの誤差が±5℃以内に入った時の経過時間とする。
なお、タイムラグ経後から測定終了時までには標準温度計と検査温度計の差は±5℃を維持しなければならない。

4. アスファルト吐出量検査について

- ・5-4のとおり全て実施する。
- ・アスファルト吐出試験は、高温かつ高圧のため、テストラインは必ず安全に固定し、かつ完全に吐出できるよう十分に安全を確認した後に試験を実施する。なお、試験中は配管及びローリー周辺に近づかないこととし、安全確保に努めることとする。
- ・吐出量の誤差の判定について

$$A = \{(C - D) / D\} \times 100$$

$$B = (F / E) \times 100$$

A: 全吐出量の誤差(%)

B: セット重量の最大誤差(%)

C: 総供給量(計量器の読みの合計)(kg)

D: トラックスケールによる重量(kg)

E: 1バッチ計量設定重量(kg)

F: 1セット値で複数回繰り返し計量したうち、計量時の計量器指針の読みから、吐出後の指針戻りの読みの差の最大誤差(kg)

※ 各バッチ毎の誤差を測定し、その結果の判定は±1%以内とする。

※ 全吐出量の誤差は上記の通りとし、その結果の判定は±1%以内とする。

平成 年度 アスファルトプラント定期検査工程表

検査日： _____

試験項目 \ 時間	9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00	
概要説明																		
常温骨材流量試験																		
プラント温度計検査																		
アスファルト吐出量試験																		
結果報告																		

プラント名 _____

工場責任者 _____

検査責任者 _____

(別紙8)

プラントの系統図(例)

工場名：

